

FP

アビター・レイル・テンホに見るフロタクトデザインの実験

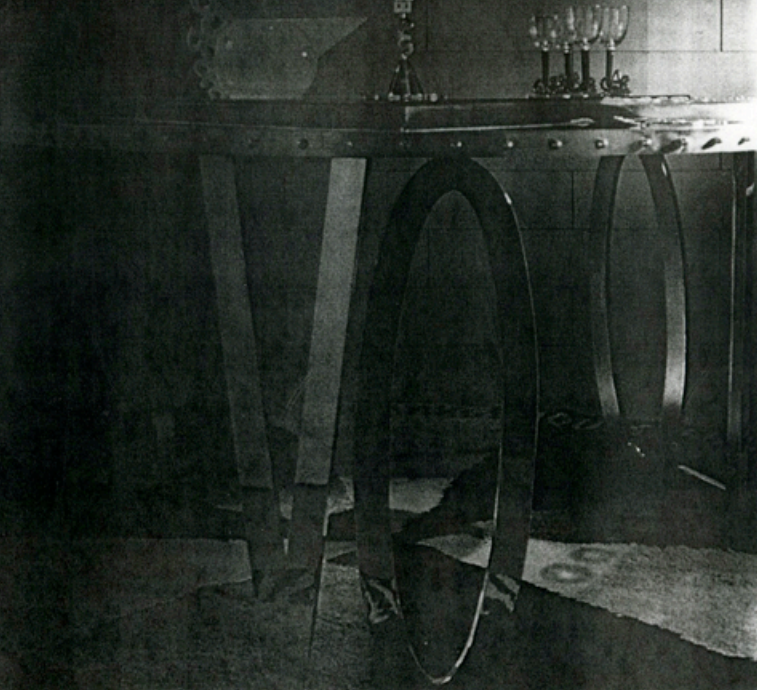
イタリアンデザインの 新しい波

消費者のライフスタイルを求めて増殖するシンクタンク
企業の生活文化研究所の実態 I
「スーハービュー踊り子」を筆頭に個性化の時代に入化した
JR各社の車両デザイン競争

世界のグランド・デザイン誌/エフ・ピー

32

FUSION PLANNING
SEPT. 1990-9

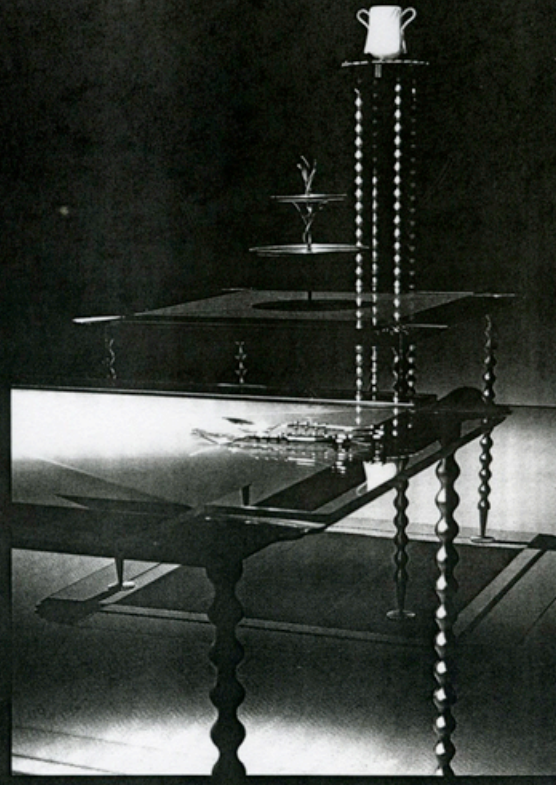


Ugo la Pietra ウーゴ・ラ・ピエトラ

アルミとガラスを組み合わせたテーブル。照明は
植物のつるを思わせる。
製作: LIPPARINI (テーブル) COOPERATIVA
ARTIERI DELL'ALABASTRO (アラバスター)
ARSER (食器)
Photo by Emilio Toremolada

Prospero Rasulo & Gianni Veneziano プロスペロ・ラスロ、ジャンニ・ヴェネツィアーノ

2体の小さなブロンズ製のテーブル。卓面には清
が彫られ水が張られている。
製作: ORTOLANI (テーブル) SISAL COLLEZI-
ONI (カーペット)
Photo by Emilio Toremolada



第5回アビター・レイル・テンホ報告

クシニョック・インテリアの見本市でもある
ヴェローナの「アビター・レイル・テンホ」
は、第5回を迎えた今年も5月4日〜6日迄
の5日間に渡って、ヴェローナの見本市会場
にて開催された。

ヴェローナの商工会議所によって選ばれた
家具、インテリア、テキスタイル、オブジェ、
床材、インテリア素材、照明器具の分野をカ
バーするメーカーが参加して開かれる見本市
である。展示面積は1万5000㎡。

同見本市は、企業が出展費を払って参加す
る主催場での展示会（販売促進用の展示会）
と、それ以外の後つかの観覧及びコンフェ
レンス（文化的催し）の2つの部門から成り立
っている。この両者を組織的に共存させた家
具見本市というのは、イタリアではニヴェ
ローナにしか存在しない。ミラノのサロニ
ネが制約なしの様々な種類の家具メーカーの参
加で成立しているのに対し、ヴェローナの家
具見本市は元々、クラシック家具という部門
に限っての展示会として成立したものである
点を忘れてはならない。従って、そのほとん
どが1700〜1900年代の様式家具の複製
製を主たる仕事とするメーカーでしめられて
いる。いずれも上質の素材と優れた伝統的技
術を駆使する優良メーカーばかりである。

例えばそのひとつ、ボルギ社が家具製造の
メッカ、カントーに3代続く会社。従業員数は
約30人、アント・ディレクシオンをい
ヤンカルロ・ボルギ氏が、叔父のトリオ・
ボルギ氏が製造の理を受け持ち、外部の委託